

通学路における

安全対策について

(リベラル西条)

問

本市では、次世代育成支援対策推進行動計画において、「子どもと地域が伸び伸び育つまちづくりを目指して」との基本理念の下、子育てを支援する生活環境の整備を基本目標の一つに掲げ、犯罪などの被害から子どもを守るための活動推進に取り組んでいるが、通学路における安全対策の現状及び今後の取組について問う。

答

通学路における安全対策の現状については、各校の通学路において交通指導を毎月実施し、人や車の動き、量について実態調査を行うとともに、児童・生徒や保護者、地域からの情報及び地区担当の教員による巡視などの安全点検を行っている。

また、登下校時には児童・生徒が集団登校や複数下校を行っており、全ての校区においてPTAや教員、学校地域安全ボランティア、防犯協会、青少年補導委員、交通安全協会、青色パトロール隊など、多くのかたが



安全な通学を

たによる見守り体制が整っている。

更に、不審者に関する情報は、幼稚園や小・中学校及び高校、防犯協会、青少年育成センター、公民館、隣保館、PTA、福祉関係機関などと共有しており、PTA連合会では、不審者情報のメール配信サービスも行っている。

今後とも、交通事故や不審者などから自分の身を守る教育を徹底するとともに、関係機関への指導や先進地の取組なども参考に安全な地域づくりを推進していきたい。

団塊世代の力を活かした

子育て支援策を！

(公明党西条市議団)

問

今日、団塊の世代と言われるかたの多くが定年を迎えており、他市では、これら団塊の世代の知識と経験を生かし、子育て・お助け隊ボランティアスタッフとして育児体験談の講演や絵本の読み聞かせなどを行い、女性の社会進出をサポートする子育て支援策に取り組んでいる。本市においても、これら団塊の世代の社会参加を促進し、子育て支援をサポートする取組を行う考えはないか。

答

本市では、延長保育、休日保育など、多様化する子育てニーズに応じた保育サービスの提供をはじめとして、放課後児童クラブ、地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター事業などの支援策により、子育ての負担軽減を図っているところである。

こうした支援策に加え、新たに団塊の世代の貴重な経験や能力を子育て支援に活用することも重要なテーマであると認識している。今後、その具体的な施

策についてじゅうぶん検討を行い、事業化を図っていきたい。

西条市合宿都市構想の成果と

今後の取組は？

(無党派)

問

合宿都市構想策定から今日に至るまで、合宿受け入れ団体が増加し、経済的な波及効果も大きくなってきていると思われるが、主な成果と課題について問う。

また、石鎚山周辺などを活用した高地トレーニングの推進は、市民の健康増進などにつながるものであるが、この拠点施設の現状と、今後の活用に向けた取組について、市はどのように考えているのか。

答

合宿都市構想は、平成20年度の基本計画策定以降、積極的に合宿誘致活動などを行い、平成23年度の予定も含め159団体、延べ3万2千31人の合宿者を受け入れている。これらの経済効果もさることながら、高地トレーニングによる参加者の体質改善効果や、石鎚山系元気ウォーキング大会の開催による交流人口の拡大が成果として挙

げられる。

今後、あらゆるネットワークを活用した誘致活動を行い、市内宿泊業者などと協力・連携し、受け入れ態勢の充実を図るとともに、交流人口の拡大、市民の健康増進につなげたい。

また、高地トレーニングの拠点施設として、瓶ヶ森ヒュッテの活用も視野に入れた検討を進めてきたが、山岳拠点として多くの登山家に親しまれてきた経緯や、施設の老朽化による大規模な整備の必要性などを考慮し、高地トレーニング拠点施設だけではなく、その他の施設として活用する可能性についても検討したいと考えている。



石鎚山系元気ウォーキング大会